

現場で見える、覚悟

先陣の背中

森川放牧畜産



初めて届く「限界」というSOS

初めて薫さんから届いたSOS。

「体力の限界。もう無理。現場で一緒に動けるのは聖也しかないない」

その言葉を聞いたとき、

ようやくここまで来たんだ、と。

正直、嬉しかった。誇らしかった。

でも、現場に立った瞬間その甘さを痛感した。限界を〇にしていたはずの人が、

誰よりも動き、誰よりも淡々と手を動かしている。なんなら、チェンソー一本でダンチクだらけの放牧地に飛び込み

命懸けで切り開いていく。

その動きに、思わずこちらにもスイッチが入った。汗だくになりながら僕もカメラを至近距離で構え、一挙手一投足を逃さず

に追いかけた。

牛たちが集まり、切ったばかりのダンチクを夢中で食べる。その光景に、僕の中の何か、がまた動き出す。

これが、先陣を切る、ということか。

これが、覚悟を持って生きる、ということか。

自然の営みに合わせて動くというのは、ただ穏やかに過ごすことではない。出し切る。動き切る。でも本音は決して隠さず溜め込まない。

それが地球人としてのリズムなんだと感じた。

僕はこの地に、誇りを持って足を踏み入れた。けれど、またひとつ衝撃的な学びを与えられた。

自分一人でも進み続けること。

誰がよいといまいと、その一歩が風を起し、流れを生み世界を変えていく。

僕はこの土地で改めて「繋げる。」として生きていくと決めました。

それが僕の音を鳴らす理由。

命の現場で受け取った全てをまた次の誰かに手渡していく。

by seiya kumamoto

活動の支援は
こちらから→



Instagram :
morikawachikusan

活動場所 :
長崎県西海市

連絡先 :
morikawachikusan.shop@gmail.com